



(写真・熊本日日新聞提供)

険しい峠道をひた走る新
春恒例の第四十二回熊日三
太郎甘夏駅伝競走大会が一
月十二日行われた。
好天に恵れ、沿道の盛ん
な声援と力走する選手とが
一体となつて見事な駅伝絵
巻が繰り展げられた。
一般十二、高校五、中学
六チームの計二十三チーム
参加の中で、我が津奈木チ
ームは一般の部、総合成績
で堂々二位を獲得した。
この上位入賞は町民の皆
様のご声援と選手全員のチ
ームワークの勝利である。
正に一致協力の結果である。
今後の津奈木町の発展を
象徴しているかのようであ
る。
これを機に本町が各方面
で躍進して行くことを念願
するものである。

学校の世間に合わせて週五日制
が近い将来導入されそう。さし
あたって本年九月から月一回土曜
が休みになり、連休になるらしい。
児童生徒のこの連休指導について
色々模索されているが、始めは教
職員が主で、後は社会教育等、健
全育成の方策がとられるようだが、
要は各家庭や地域社会が全体で一
部づつ荷を担って、皆がレジャーや
休養等をして人生を楽しむことに
したいものだ。そのことは有難い
ことだと真から思うけど、日本人
の働きバチの精神はなくしたくな
いものである。

津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(78)3111代
印刷所 旭印刷
電話(水保) 4101番

熊日甘夏三太郎駅伝大会 活躍めざましい 津奈木チーム (ゼッケン3番・4番が津奈木チーム)

一言

今の若い人達は給料より休みの
多い方がよいと云う。世の中が豊
かになり或程度満足できる生活で
あるから、よりレジャーや休養等
自分の時間を持ちたいと考えるよ
うになったのだろう。
労働省が一月三十一日発表した
一九九一年の毎月勤労統計調査で
は、従業員三十人以上の会社の一
人当り年間総実労働時間は二千十
六時間で、前年に比べて三十六時
間二・〇%減少した。減少率は
七四年以降最大だったと報じられ
た。だん／＼確実に働く時間が少
なくなり、自分の時間がもてるよ
うになる。ほんとうに今からの若
い人達はいないかと思う。この時
間を大事にしてほしい。

文化初期の薩摩街道 「分度記」で明るみに

熊大附属図書館で一枚の絵図を見つけた。御領内街道海辺測量分見絵図」という。作者は池部長十郎といひ、薩校時習館の天文学・数学の先生である。
この絵図の作製を仰付かったのは、伊能忠敬にその原因がある。文化(一八〇九)六年八月、忠敬一行は九州測量出発に先立って九州各藩に協力要請状を送っていた。
肥後細川藩でも早速池部長十郎に命じて絵図を作製させたのである。この時の測量のデータを記録したものを「分度記」という。
池部長十郎の門弟に芦北郡では津奈木出身者が多い。六車文太、六車和八郎、徳永栄蔵、齊藤喜右衛門、有本五郎次、齊藤理喜次、今村儀助、伊藤太多次、齊藤宅右衛門、竹本仁登太の名前が、池部長十郎の藩命による測量および伊能忠敬の測量のときに手伝った者として記録に残っている。
肥後国内の街道と海岸を測量した大なる「分度記」も熊大附属図書館の奥深く眠っていた。
昭和五十八年三月、熊本県教育委員会は調査員に依頼し、郷土史家を動員して薩摩街道の踏査を行い「熊本県歴史の道調査」として報告がなされた。津奈木地区では当

六車文太らが測量した「御領内街道海辺測量分見絵図」の内水保津奈木地区



時岡松社が協力している。しかし光明寺から尺子越までと、赤松の永松先生宅から小津奈木神社までの二ヶ所が不明箇所として残されている。いずれも異説があつてきめかねていたのである。
「分度記」は文化初期の薩摩街道の全貌を明らかにしてくれる筈である。
肥後国内の街道(芦北郡では県境神川から矢筈嶽の麓を通り久木野、大野、湯浦へ出る往還も測量)海岸を測量した大なる「分度記」の中から津奈木地区を抜出し作図してみた。
赤松地区では、小津奈木神社から寺床商店の後を大きく迂回し、永松先生宅の後から越中次郎兵衛松を左に見て三号線に出るルートが判明した。熊本城前札ノ辻から二十二里を示す一里木が、永松先生宅西角にあったこともわかった。
野平ルートには残念ながら落下があり、百二十間程距離が不足している。津奈木地名研究会では三月一日現地測量を実施し解明することになった。結果は次号に報告したい。

広がれ花の輪、笑顔の輪

津奈木小学校飼育栽培委員会

校門を入ると必ず花だんがある。きれいな花が咲いているというのが学校のイメージです。でもその花はいつたい誰が育てたものでしょうか。
きれいに飾るには、花屋さんから購入した方がいいのです。でも教師が「きれいだ」といって力説しても、



子どもたちが種から育てた白い鉢の花は、現在、役場玄関前にあります。

多少見劣りしても、子どもの手が加わった花こそ価値があります。体験不足や自然離れが問題視されている今日、子どもの手に触れ、思いのこもった花が学校に咲いていること、できれば周辺に広がっていけばと考えています。
子どもの「思い」を咲かせたい。

思いでいっぱい 親子風あげ大会



お父さん、お母さんと一緒にとっても楽しそうでした

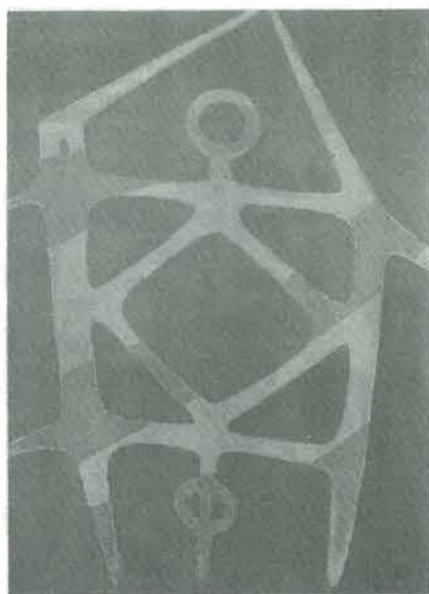
去る一月十九日(日)津奈木町総合グラウンドで、冬休みに親子で作った風をもちより、ポカポカの好天気の中、新春親子風あげ大会が開催されました。
この日は、親と子が冬休みに一緒に力を合せて作った、思いでいっぱいの手造り風が、大空に舞い上がりました。参加者もこれまで一番の三百名余。もちろん、大空に舞

いあがる風があれば、頑張っても頑つても地面を這いずりまわる地引風も、また、子供より親が昔を思い出されてか、夢中に風をあげておられる場面も、沢山見受けられました。中には修理してもなかなか舞い上がらない風もありました。最後は、ユーモアにとんだ各賞を全員が受け、親と子が楽しくふれあつた一日でした。



修理におられるお父さん

油彩「地中海」 1970 境野一之作



波光きらめく紺碧の海、水揚げで賑わい命の躍動する港、太陽の恵みをいっぱいを受けて育つオレンジほ実・・・その風土は、どことなくこの津奈木の地に似てはいないだろうか？幾千年の昔、そして今も変わらず、その紺碧の海をひとまたぎにして陽気な船乗りたちが往く・・・澄み切った乾いた風を帆にはらませながら・・・
(Y・K)

庁舎美術館(40)

藤間流 藤豊会

藤豊会津奈木支部は、熊本、藤間富士齋先生を会主とする会でございます。

熊本市民会館、県立劇場、産業文化会館と先生の夏の藤豊会にも津奈木支部より毎年参加出演しています。折角の良いチャンスで、他社中との心、技、のふれあいを大切に富士齋先生を中心に皆頑張っています。

先生のおかげで津奈木支部より、お二人、藤間のお名前を許可されたい方もいらっしゃると思います。

津奈木町で毎年行なわれていた文化祭にも第一回より毎回出演させて頂いており、また、今年の文化祭にも是非・・・と練習に余念がありませぬ。踊りの好きな私達は毎週月曜日浜公民館で皆様に世話になりながら練習に励んでいます。美容体操に思いついて貴女も御気軽に参加されませんか。・・・皆様の御参加を心よりお待ちしております。
(川崎記)



津奈木町文化祭にて

津奈木華道茶道 愛好会

私共愛好会も文化協会へ加入して早や十年が過ぎました。其の間若い会員さんは結婚の為祝福され



水俣市のお茶会にて

津奈木町文化協会 クラブ紹介

ながら去り、随分メンバーも変わりました。華道では文化祭に十回参加させて頂いていただいています。文化祭前夜は生け込みから後片付け迄、和気合々と作品作りに精根を尽して参りましたが町民の皆様も「生け花」をご覧になって感動して下さいましたでしょうか。

自然の姿の草木や花々を眺める時、心豊かになります。長い歴史と伝統を持つ「生け花」の技法を学び、自分なりの個性で表現し

てほしい。」と言う意味の文を記しています。

私は六十歳になって始めて、自分専用の本棚を持つ事が出来ました。還暦祝いに、長男が買ってくれたものです。

胸をはすませ乍ら、早速本の整理に取りかかると、一冊のうすい文集が目にとまりました。それは昭和四十年の家庭教育学級の感想集でした。やや黄ばんだ頁をめくると、既に亡くなられた方や、懐かしい人の名前が並んでいます。

随筆

古い文集によせて

寺本 ツルヲ

もあり、家庭教育学級は唯一の修養の場として、よほどの事が無い限り出席した様に思います。

感想文には「偉い人になってほしい」と思わぬが、人に迷惑をかける、心の豊かな人間に育つ

郷土の植物(2)

《山地の植物》推葉 昭二



ゴト山のスダシ

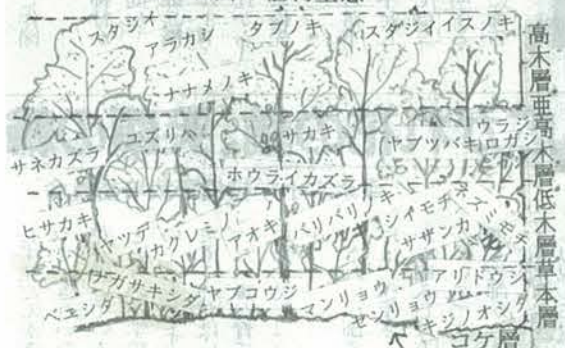
林が点在する。

照葉樹林は高木層、亜高木層、低木層、草木層、コケ層と五つの階層をつくるのが特徴で、今ゴト山の植生をイラスト図で示すと次のようになる。もし、高木層の一部に老朽等による欠如が生ずると、下の階層から次々に昇格し照葉樹の天然林は永遠に維持されることになる。これは照葉樹が陰樹で弱い光でも幼樹が成長できるからである。これに対しスギ、ヒノキ、マツは陽樹であるために成木の下では幼樹の育ちが悪く自然の中で次交代交替ができず、天然林は出来にくい。また、天災に弱いのも

ゴト山の中には珍種や稀少種も少なくない。例えばヤマウツボ、ホシケイラン、カカツグユ、オガタモノキ、ミヤマトベラ、等はそれである。

町のその他の山地で特筆すべきものはマツバラ(重盤岩) マルバコンロンカ、シオデ(染竹) エビガラシ、ハカタシダ(内野) ホウビシダ、サイゴクホンダウシダ古中尾) キンバイササ(薬草岳) ミサキカグマ、ヒメノボタン(矢城山)等

ゴト山の植物生態



短歌

宮崎 優選

冬空は透きとおるたり茜して逆光のなか船かえり来る

次つぎにチェックしてゆく住所録書年賀状年ごとに減りぬ
あまたの音しづもりて鶴の尾を上下しぬ元旦の庭

西滋子

元旦に松の緑の極まりて水盤に有り静かなる朝

「口メモ」一首の中で同じ言葉の配列を変えてみただけで、読者の心を打つ歌になることがある。之は推敲による作歌の技法の一つである。特に初句と決句は大切であり、配列を変えた時に助詞の使い方に注意する。

白浜美和子

人知れず足の痛みに悩む日び老を重ねゆく年明けゆかん

「一口メモ」一首の中で同じ言葉の配列を変えてみただけで、読者の心を打つ歌になることがある。之は推敲による作歌の技法の一つである。特に初句と決句は大切であり、配列を変えた時に助詞の使い方に注意する。

福田八重子

海よりの風に黒髪なびかせて美奈代の歌声観衆をのむ

さすが一筋の苦勞人
さすがにそれ一筋の苦勞人
さすがにそれ一筋の苦勞人

肥後狂句

編集部整理

暮れなすむ厨に鍋は煮えたちて畑に馳せて春菊摘み

さすがにそれ一筋の苦勞人
さすがにそれ一筋の苦勞人
さすがにそれ一筋の苦勞人

寺本ツルヲ

夏の間を刈り残したる土手草にまじりて揺るるは薄の群れ

さすがにそれ一筋の苦勞人
さすがにそれ一筋の苦勞人
さすがにそれ一筋の苦勞人

野田浦子

新年の装いなりぬ早やばに局の門松真あらたなり

さすがにそれ一筋の苦勞人
さすがにそれ一筋の苦勞人
さすがにそれ一筋の苦勞人

柳迫いづも

庭の木に百舌の高鳴く老吾のたるむ心を叱咤すること

さすがにそれ一筋の苦勞人
さすがにそれ一筋の苦勞人
さすがにそれ一筋の苦勞人

一笠二句づつ

役場内教育委員会社会教育係へ。



星野さんは、ゆりの花や桜の花など、主に花について絵を描いている人です。私は、その絵を見て本物みたいで生きているような気がしました。

とても、私には、書けそうにもありません。なぜかと言うと、私は両手を自由に使うことができません。星野さんは、両手を使わず口で絵を描いていたからです。星野さんと言う人は、とてもすごい人だし、努力をする人だと感じました。

星野さんが、口で絵を描くようになったのは、中学校の体育の先生をやっていた二か月が過ぎた一九七〇年六月

読書感想文

「かぎりなくやさしい花々」

赤崎小学校5年 林田 理奈

長い病院生活をしてきた中で、始めて口で書いたかたかな漢字を見た時、みんなの中にはおかしな字だと笑う人がいるかもしれないけど私は、その字の中に星野さんの苦しさなどがこもっていると思いました。

私も星野さんに負けないように、どんなことでもがんばっていきたいと思いました。

